

# 令和6年度 東京都立墨東特別支援学校 経営報告

<学校概要> 本校は肢体不自由教育部門（本校小・中・高3学部と分教室）と病弱教育部門（本校からの病院訪問学級と分教室）の2部門を3拠点（本校・2分教室拠点）5指導形態（通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、かもめ分教室による療育センター内教育、本校からの病院訪問教育、いるか分教室による病院内教育）で構成される肢・病併置校に組織改編されて8年目を終える。校舎及び教育環境は37年超の状態である。卒業後のライフステージを見据えつつ、児童・生徒の障害特性や疾病等の実態に応じた日々の専門性のある教育実践と切れ目のない教育を構築することで、心豊かに自分らしく生きる力を培い、地域社会の自立した一員として社会参加し、共生社会を創出する障害者の代表となる児童・生徒の育成を目指す。

<中期計画と現在位置> 母体となった養護学校開校から37周年の今年度を、来る開校40周年の2年前に至る直近3年間を新たに「学校教育基盤充実期」と捉え、中期目標①～⑤を設定し直し、その第2年度とした。

**目標① 次世代教職員への継承/策**：急速に進む世代交代を見据え、若手教員等が今後の指導と学校運営を担えるように指導計画の蓄積やシステム整備を進め、効率的に継承できるようにする。

**目標② 専門性の内部留保/策**：専門性の蓄積と共用財産化できるシステムを構築する。そのためには専門性向上のために招聘する外部専門員についても学校ニーズに即した人材を聘する。

**目標③ 教育内容の絶え間ない更新/策**：社会に開かれた教育課程の下、社会の変化を教育に反映させて内容刷新を図る。そのためには外部講師の先進性や企業テクノロジーとその活力を積極導入する。「学校から社会へ」と「社会を学校に」

**目標④ 新学習指導要領に基づく教育課程の開発/策**：急速な世代交代が進む中、個人の経験と勘に頼らず指導できるように、学習指導要領及び文科省著作教科書に基づき、単元計画等の指導計画を開発・共有できる仕組みを構築する。

**目標⑤ 人権尊重を基盤とした相談支援体制の充実/策**：特別なニーズをもつ児童・生徒の人権を最大限に尊重し、真摯に対応・支援できるように全教職員の資質向上を図る。また、培った相談・支援の専門性を地域支援に最大限活用できるように体制を充実させる。

**目標⑥ 働きやすく効率的なビジネスシステムと環境の構築/策**：業務の見直し及び最新ビジネスツール投入等により効率化を目指したシステム改善を推進する。

## 1 今年度の取組目標等に関する自己評価 **BOKUTOU School Plan “BIG Sky R6”**

※目標に対する実施内容と自己評価（最重点目標に関する数値目標と実績値）

**最重点目標1** 墨東生が一体感と誇りをもてる教育活動等の展開 **自己評価** ◎

**数値目標** 保護者を含む全関係者評価「墨東としての良さを創出している」 $\geq 80\%$  → **プラス評価88%**

**方策** 墨東生としての誇り実感プロジェクト <主管：主幹会、教務部、生活指導部、情報部>

① 学校一体感醸成による健全育成（全校芸術活動の更なる開発と一層の展開、全校読書活動）

⇒笑顔と学びのPJ体験活動＝全員参加型の墨東美術くウェルカムフラッグと墨東タペストリーの共同制作>及び墨東書展を実施、併せて表彰制度導入、また、読書表彰等による貸出奨励（年6477冊）により読書習慣の定着

② 学校の良さ発信（HP更新とツイッター発信の一層強化・リーフレット等のデザイン刷新による広報強化）

⇒Xを560回更新し、情報を常時発信、学校案内リーフレット・義務教育就学相談・高等部相談案内を刷新

③ 学校環境の整美（墨東きれいプロジェクトⅡ＝断捨離と校内掲示統一ですっきり環境の推進）

⇒儀式環境の整備（国旗等掲揚の簡便化、校歌歌詞掲示の大型化、高輝度プロジェクター導入による拡大掲示廃止）

**最重点目標2** 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上 **自己評価** ○

**数値目標** 委員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進している」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 80%**

**方策** 運営効率化プロジェクト：3年次 <主管：主幹会、教務部>

- ① 業務改善提案の積極採用による効率的な方法の導入  
⇒多機能印刷機導入による高速化、省力化、省時間化、省コスト化、カラー印刷物の制限撤廃、諸業務の見直し
- ② 主幹・主任教諭等の職責や看護師等の専門性を踏まえた業務目標の明確化  
⇒主幹・主任教職員の業務ミッション一覧の公開による業務目標の徹底
- ③ 全教職員の業務量平準化と効率化を目指すための分掌業務の再編に基づく担当業務の再配分  
⇒前年度状況を踏まえた分掌業務の再編に基づく担当業務の再配分による業務量平準化

**最重点目標3** 専門性ある人材を活用した教育の充実 **自己評価** ◎

**数値目標** 委員評価「専門性ある人材の活用が教育充実につながっている」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 85%**

**方策** 専門人材活用プロジェクト <主管：主幹会、研究研修部>

- ① 学習指導アドバイザーを人材活用した個別学習への継続的支援による指導改善  
⇒保護者学習会2回開催と外部専門員による個別指導助言への保護者参観奨励による理解者拡大
- ② 発達支援アドバイザーを人材活用した授業改善と墨東生への行動支援の推進  
⇒問題行動の改善をはじめとした教員の悩みや相談に応える専門家の招聘による教員支援体制の強化
- ③ 「なんでも相談」リストの充実による校内専門人材を結ぶ人的サポートネットワークの構築  
⇒導入2年目、登録者拡大による幅広い専門性の共有と活用、相談しやすい雰囲気醸成
- ④ 学校介護職員・病弱教育支援員等の職専門性スキルアップ研修による協働の質的向上  
⇒部門別研修<基礎段階の学習指導>の拡大を含む専門性向上研修の全4回実施

**最重点目標4** 授業力の向上 ☆個別学習等の力量形成 **自己評価** ◎

**数値目標** 全関係者評価「基礎学力の向上を図り、学習の説明を工夫している」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 85%**

**方策** 基礎学力向上指導を含む授業力向上プロジェクト<主管：教務部、研究育成部>

- ① 専門家・指導教諭等を活用した指導実技型体験型授業力向上研修の実施（全教員対象研修）  
⇒外部専門員を招聘して教職員対象の指導実技研修：夏季3回、保護者学習会2回の実施
- ② 学習指導アドバイザーによる個別学習への継続的支援導入による指導改善の拡大（増額申請対応）※再掲  
⇒外部専門員による基礎段階の個別学習支援の拡大（児童・生徒計41名、教員22名への専門的助言）
- ③ 指導に関する説明力の向上（授業参観ガイド作成・事前配布、読み手の墨東生向けに工夫した通知表）  
⇒授業参観時に授業参観ガイドを更に読みやすくした改訂タイプを作成・事前配布（各学部2回）  
⇒児童・生徒向けの分かりやすい通知表の継続（変容時の画像と本人に伝わる賞賛表記の工夫）
- ④ 授業者支援会議でのノウハウ蓄積による改善策の共有（授業改善ハンドブック作成と若手研での活用）  
⇒延べ54回実施した支援会議成果を整理し、授業改善ハンドブックにまとめ、次年度初任者研指導改善に活用

**最重点目標5** 専門性の発揮・向上による特色ある教育の推進 **自己評価** ◎

**数値目標** 委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 96%**

**方策** 専門性発揮プロジェクト <主管：サポートデスク、情報部>

- ① 文科省採択校：DXハイスクールとして「グローバル社会で活躍できる情報人材を育てる学習」の展開  
⇒都内唯一の指定特別支援学校として、校内DX環境の充実開始（2年目に継続研究）
- ② R5都指定事業「読書活動」：全校活動展開による読書習慣の定着及び都研究会の運営による成果還元

⇒2階に図書ウイングを新設し、オープンライブラリ5拠点化、全読書活動の充実により年間貸出6千冊超

③ R5・6都指定事業「生成AI研究校」として継続研究を踏まえた教育上及び業務上の活用拡大

⇒生成AIの授業活用（ポスター作製や疑似対話による思考の深化）、全教員への1人1活用実践の展開

④ GIGA端末等の活用も含めたICT教育の一層の充実（分身ロボット、プログラミング学習他、生成AI）

⇒ロボットプログラミング選手権関東大会出場、復学支援等で分身ロボット活用、授業への生成AI活用

⑤ 意欲ある墨東生に対する検定挑戦等への意欲喚起・試験準備等の学習支援、受験支援と補充指導

⇒漢字検定、英語検定等への挑戦者30名（前年度27名）、合格者28名

**最重点目標6** 墨東生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価△ ※指導下の重大事故発生

数値目標 関係者（保護者+委員）評価「防災対応が充実している」 ≥ 80% → **プラス評価 85%**

方 策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部、教務部>

① 温暖化や教職員の世代交代等の現況を踏まえた諸学習活動の在り方の検討と移行（水泳・宿泊学習他）

⇒温暖化によるリスク低減のために、夏季休業中水泳教室を廃止し、学期中利用の拡大、宿泊学習スリム化検討

② 相互理解に基づく墨東生の一体感醸成及び健全育成推進 = 笑顔と学びPJ体験活動展開

⇒本校と在宅訪問と病院訪問と2分教室による初の全墨東生参画の共同制作と書道展の実施

③ 避難訓練時の活用による危機管理マニュアル実用性の向上、宿泊を含む防災訓練等の強化と取組み発信

⇒PTAと合同開催の防災訓練実施。備蓄品一覧や被災時対応を特集した防災教育通信「防災の橋」を2回発行

④ 安全の徹底及び万一の事故を教訓とした再発防止策徹底（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）

⇒予期せぬ事故や体調急変事案に基づく緊急時対応訓練を全グループで延べ22回実施、改善した引継ぎシートの導入

⑤ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会を活用した早期把握と面談を活用した積極的予防の推進

⇒企画調整会議後に隔週実施し、早期の情報共有による未然防止と即時対応による早期解決

**最重点目標7** 感染症予防徹底を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食提供体制の構築 自己評価◎

数値目標 全関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制が構築されている」 ≥ 80% → **プラス評価 85%**

方 策 保健・医療的ケア・給食の充実プロジェクト <主管：保健部>

① 感染予防対応の徹底を含めた健康教育の推進（衛生的な環境の確保と想定訓練、情報発信）

⇒5類以降に伴い感染症対策緩和を前提として、状況に即した教職員指導体制及び感染予防体制の調整

② 医療的ケア児支援法の精神を踏まえた専用通学車両看護師乗車率の一層向上、校外学習時の看護師付添拡大、保護者

の就学時及び呼吸器及び注入に伴う校内待機の縮減を含めた学校対応の一層の充実

⇒専用通学車両の増車による通学支援の拡大、看護師乗車の拡大、保護者の付添い軽減

③ 初期食シリンジ注入や形態食提供による個に応じたケア及び摂食指導充実及びアレルギー事故防止徹底

⇒摂食相談医と摂食指導アドバイザーと連携した形態食の提供及び給食食材の誤納品を防ぐ、納品時検品体制の改善

④ 個に応じた安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイムの実現（例：行事・季節・テーマ・リクエスト食）

⇒リクエスト給食（卒業学年の希望食）、季節に合わせた給食や地方の文化等を尊重した給食の提供

**最重点目標8** 対外フロント「特別支援教育サポートデスク」設置による支援の充実 自己評価△

数値目標 保護者評価「進路指導や進路情報、地域支援の内容を適切に伝えている」 ≥ 80% → **プラス評価 73%**

方 策 地域支援充実プロジェクト <主管：サポートデスク> ※相談部を改組

① 入学相談を含む教育相談や地域支援、進路等に関する情報の一元化を基盤とした組織対応の徹底

⇒入学相談：問題作成委による学力調査問題作成と過去問題開示による準備学習の機会提供

- ② <病院内教育> 病院と連携した転籍前教育相談支援、分身ロボット活用も含めた復学支援の推進  
⇒実態や制約に応じた OriHime や Teams 等を活用した指導の展開、個に応じた復学支援会議の開催
- ③ 進路指導の充実〔個に応じた実習（遠隔を含む）指導、進学・就労への丁寧な対応〕  
⇒関係区の福祉部署と連携した実習を踏まえた希望者全員の進路決定。進学通信の再開
- ④ 卒後・生涯学習支援（校内販売機会の提供による就労実像の理解促進、業務習熟への支援、同窓会等支援）  
⇒近隣区の福祉就労施設食品生産部門への校内販売機会の提供による卒業生の就労実像把握機会の校内提供
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA（全国・関東ブロック・都組織を含む）活動への協力や大会派遣協力  
⇒全肢P石川大会への教員・学校介護職員派遣と成果報告による保護者連携の充実

**最重点目標 9** ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出 **自己評価 O**

**数値目標** 関係者（教+委）評価「働きやすく効率的な執務環境の整備が進んでいる」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 88%**

+ 全教職員の時間外勤務の縮減 <時間外勤務月45h超教員の解消> = 超過者0名

**方 策** 職場環境改善プロジェクト <主管：主幹会、教務部、経営企画室>

- ① 学校環境の整美（墨東きれいプロジェクトⅡによる断捨離と校内掲示統一ですっきり環境の推進）  
⇒墨東きれいプロジェクト定例化（夏の全校クリーンデー）、壁面塗装、自販機ラッピング、フラッグとタペストリー常設
- ② 業務のOA・DX推進（例：多機能印刷機の導入によるカラー印刷物の効果的活用）  
⇒校務のOA化推進、AI研究校としての校務活用、欠席連絡等のClassi利用定着
- ③ 職場環境の改善（リフレッシュ資源として出張販売等の通年導入の拡大）  
⇒セルフスイーツショップの本校舎内3室設置、自販機入替、出張販売の積極導入によるリフレッシュ機会の提供
- ④ 教職員のメンタルヘルスケアとライフプラン構築へのサポート（産業医面談、ミニセミナー他）  
⇒メンタルヘルス&マネーセミナーの開催によるライフデザインサポートと産業医面談の励行
- ⑤ 夏季休業期間中に休暇取得奨励期間の設定「しっかり休もうリフレッシュ16days」の継続  
⇒学校閉庁日+休日+休暇取得推奨日による16日間連続休み奨励：全教職員の96%超が16日連続休み取得

**最重点目標 10** 研究と修養目標：ライフ・ワークバランスを踏まえた個々の研鑽奨励 **自己評価 △**

**数値目標** 教職員の自己評価「業務に生かせる研鑽ができた」 $\geq 80\%$  → **プラス評価 75%**

**方 策** 日々の授業改善と自己研鑽の成果を発信プロジェクト <主管：研究研修部>

- ① 授業者支援会議の効果の徹底追究（若手：授業改善力の育成、経験者：支援力の向上）  
⇒指導者の授業力、経験者の支援力向上につがる授業者支援会議54回の実施
- ② 授業者支援会議で得たノウハウ蓄積による改善策共有（授業改善ハンドブック作成・活用）  
⇒支援会議成果を編集し、次年度初任者研修テキスト活用を前提とした授業改善ハンドブックの作成・配布
- ③ 専門家・指導教諭等を活用した指導実技体験型授業力向上研修の実施（全教員対象研修）※再掲：最重点4①  
⇒外部専門員を招聘して教職員対象の指導実技研修：夏季3回、保護者学習会2回の実施
- ④ 研究大会等への積極派遣及び成果還元レポートの校内共有による研鑽意識の活性化  
⇒東京教師道場派遣リーダーによる成果還元レポートの作成と提供

## 2 次年度以降の課題とそれに対する改善策

### (1) 東京都特別支援教育推進計画(第2期1・2次、新3次実施計画)及び都教育委員会施策への取組み改善策

- ◆都推進計画を踏まえ、令和7年度経営計画には次段階の取組目標・内容を示す。(以下に記載例)
  - ◎ 指導要領的障害各段階及び教科書に準拠した指導計画作成と実践例の共有化による効率化の推進
  - ◎ 専門家を活用した学習指導要領への的確な対応(基礎段階の個別学習の日々の積上げ徹底の継続)
  - ◎ 学校図書館の更なる充実、全校読書月間等の継続による読書習慣の一層の定着と探究活動での活用
  - ◎ 小中学部GIGA端末・高等部一人1台端末を活用したAI活用、プログラミング学習などICT教育の充実
- ◆医療的ケアに関する諸事業<保護者付添い短縮化、専用車両運行他>を推進し、保護者付添いの縮減推進
- ◆時間外労働時間低減に加え、働く手応えを感じ取れる業務開発や環境整備、到達点を共有できる組織運営の推進

### (2) 中期計画を踏まえた学校教育充実の改善策 ※中期計画は令和6年度学校経営計画参照

- ◆来る開校40周年に向けた基盤整備の継続
  - ・学校環境の整備継続/校舎内外の美化、指導の安全、防災機能充実
  - ・学校組織の整備/強固でしなやかな学校運営組織の構築と魅力ある教育活動の開発及び成果発信
  - ・学習指導要領(知的障害各段階)に基づく指導計画の開発と共有
- ◆基礎学力の獲得を基盤とした自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮
  - 全:学校図書館の充実とともに、家庭貸出奨励及び授業と連動した図書活用など全校で多面的展開
  - 全:スポーツ表彰・アート表彰・書道表彰・読書表彰・模範生表彰等を継続し、輝く個性の再発見

### (3) 令和6年度学校経営報告及び学校評価から導く「自己設定課題」に対する改善策

**最重点目標6** 墨東生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価 ▲

⇒緊急時対応力向上「より早く、よりの確に」を目指す専門家を招聘した研修の実施

**最重点目標8** 校内外フロント「サポートデスク」設置による支援の充実 自己評価 ▲

⇒進路指導体制の充実による、保護者連携の改善、情報発信の強化、墨東生や保護者への外国語対応の強化

**最重点目標10** 研究と修養目標:ライフ・ワークバランスを踏まえた個々の研鑽奨励 自己評価 ▲

⇒個々の研鑽機会の奨励と研究成果の共有

### (4) 人材育成の改善充実策

- ◆今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する。(教育管理職、4級職、主任教諭挑戦者の育成)
- ◆将来の教員リーダーとなるために、教師道場や各種委員への推薦、派遣研修への選考挑戦の奨励と支援
- ◆教員志望者応援講座及び初任者パワーアップ講座を開催して、将来の特別支援教育を担う若手人材を育成
- ◆介護等体験生や見学生向けに「保護者談話」を組み込む等の特別支援学校教員のやりがいや伝わる企画の開発
- ◆特別支援学校教員志望者増に向けて、高校・大学段階からの情報提供と見学・体験機会の提供
- ◆将来の医療的ケアを担う看護師増につなげる看護専門学校在学者の実習受入れ拡大

※各項目に関する関係者(委員、教職員、保護者)評価の詳細は、本校HPに掲載の「令和6年度学校運営連絡協議会報告及び学校評価アンケート集計結果、分析・検証結果、学校評価アンケート報告」を参照。